

オープンデータ流通推進コンソーシアム

第四回 利活用・普及委員会 議事要旨

日 時：平成 25 年 3 月 13 日（水）10:00～12:00

場 所：株式会社三菱総合研究所 4 階 大会議室

出席者（敬称略）：

主 査：中村 伊知哉（慶應義塾大学 メディアデザイン研究科 教授）

副 主 査：村上 文洋（株式会社三菱総合研究所）

委 員：大向 一輝（国立情報学研究所 准教授）川島 宏一（佐賀県 特別顧問）、小林 巖生（有限会社スコレックス）、庄司 昌彦（国際大学 GLOCOM 主任研究員・講師）、野原 佐和子（イプシ・マーケティング研究所 代表取締役社長、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授）、福野 泰介（株式会社 jig.jp）

オブザーバ：総務省 情報流通行政局、内閣官房 IT 担当室、経済産業省 商務情報政策局、国土交通省 総合政策局、国土地理院、農林水産省、気象庁、日本経済団体連合会、ASP・SaaS・クラウド コンソーシアム（ASPIC）、越塚 登（技術委員会 主査）

会 員：ITS Japan、(株)インプレス R&D、インフォコム(株)、(株)インフォマティクス、(株)内田洋行、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、オープンデータ革新協議会、(株)カーリル、(独) 科学技術振興機構、北日本コンピューターサービス(株)、グーグル(株)、KDDI(株)、(株)建設技術研究所、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター、国際航業(株)、サイオステクノロジー(株)、鯖江市、(株)JMAホールディングス、Georepublic Japan、(株)自動処理、社会基盤情報流通推進協議会（AIGID）、(株)ジャイロビー、ジャパンシステム(株)、ソフトバンクテレコム(株)、地域情報化モデル研究会、(株)電通、(株)東芝、ドットジェイピー、トヨタ自動車(株)、流山市、日本マイクロソフト(株)、日本ユニシス(株)、日本経済新聞社、日本アイ・ビー・エム(株)、日本工営(株)、(株)パイプドビッツ、パイオニア(株)、(株)パスコ、パナソニック(株)、東日本電信電話(株)、前田建設工業(株)CDS プロジェクト室、三井住友海上火災保険(株)、明電ソフトウェア(株)、共同通信社、日経 BP、日刊工業新聞

事 務 局：村上 文洋、津國 剛、福島 直央、高野 侑子（三菱総合研究所）

配布資料：

資料 1. 座席表

資料 2. 総務省実証実験等についての報告資料

資料 3. 経団連公共データの産業利用に関する調査結果報告

資料 4. データガバナンス委員会検討状況報告

資料 5. 技術委員会検討状況報告

資料 6. 平成 24 年度活動報告と平成 25 年度活動計画案

資料 7. 勝手表彰・受賞者一覧

資料 8. オープンデータ流通推進コンソーシアム会員名簿

議 事：

1. 総務省実証実験等についての報告

- ・①資料 2 に基づき、越塚氏（横須賀テレコムリサーチパーク）より「情報流通連携基盤の公共交通分野における実証」について報告。

【質疑応答】

: バス停間の（バス位置）データは補完せざるをえないのか。GPS がバスでどれほど流通しているかわからないが、補完せずに（バス位置の生）データを表示させることが可能かどうか教えて欲しい。

: 現在実証実験を実施しているところは、GPS を付けているので、表示されているデータは GPS によるものである。短期間で実証実験を行っているので、GPS のデータを生で出すようなシステムになっていない。長い時間とお金をかければ出すことは可能である。

・②資料 2 に基づき、坂森氏(日本工営株式会社)より「情報流通連携基盤の地盤情報における実証実験」について報告。

【質疑応答】

: 今のデモは、一般に公開され、誰でもアクセスして試すことはできるのか。

: なるべく早く公開し、利用者に対するアンケート等も実施する予定である。今週末か来週初めにはサイトを公開する予定である。

: ボーリングはポイント（つまり離散型の）データなので、（地下 3 次元マップを作る際には）連続データに推定されていると思うが、推定誤差については利用規約で表現する必要があると思う。そうでないと、誤差がないものとして利用者側が利用する可能性がある。この点について何かご意見があればいただきたい。

: ボーリングはそのポイントで掘削するので、位置を割り出すための測量精度のログを持っている。誤差が出るのは、三次元モデルや断面で間を補完する場合である。誤差をどのように示す必要があるかは、まだ我々の業界の中でも決まっていないので今後の検討課題である。

: 国交省が地盤情報をオープンにし、既に関連サービスが民間でも作られていると思うが、そのような取組みとの関係はあるか。

: 今回の実証はサービスの検証ではなく、あくまで地盤情報の標準 API や標準規格を定めるものがある。サービスは、実証のために実施しているが、基盤を作ることで今後サービス展開されることが望ましい。

: 国交省が地質情報やボーリングデータ等のポータルを持っているが、ここで取り扱っているデータとの関係はあるか。

: 国交省の「KuniJiban」というサイトがあり、全国で 10 万本程度のボーリングデータが公開されている。そちらとは連携を取っており、こちらの実証サイトでもリンクをかける形で閲覧できるように作っているところである。

: 双方がリンクを貼っているということか。

: こちらのサイトから国交省の「KuniJiban」を見られるようにリンクを構築している。

- ・③資料 2 に基づき、八木氏 (ITS Japan) より「災害時通行実績情報の流通・連携の促進に関する調査研究」について報告。

【質疑応答】

：コストの問題で、常時データを提供できないという話だったが、どの位のレンジで話をされているか、参考までに伺いたい。

：配信頻度・期間によって異なる。東日本大震災クラス地震が来た時に最初の 3 日間位を 2 4 時間更新でやるということであれば、我々業界として頑張っていく可能性はある。各自治体が災害の警戒に入られる時に配信を開始して、更に例えば 1 週間位配信し続けることになると、各社辛いものがある。年間数百万のレベルでは厳しい。概算でもう一桁上がが必要である。

：とても有益な情報だと思うので、災害時以外にもビジネスのシーンで活用することで、その費用を補う工夫が今後できたらよいのではないかと。

2. 経団連公共データの産業利用に関する調査結果報告

- ・資料 3 に基づき、神崎氏 (経団連) より、「**経団連公共データの産業利用に関する調査結果**」について報告。

3. データガバナンス委員会、技術委員会の検討状況

- ・①資料 4 に基づき、事務局から「**データガバナンス委員会における検討状況等**」について説明。

【質疑応答】

：成果が出るととても大きい。コンソーシアムの立場としては、提言をしたり、関係する役所と連携したりすることだと思う。もちろん IT 本部でも議論が行われると思うが、私が関わっている知的財産戦略本部でも問題定義がされている。オープンライセンスに対する検討が本格的に始まるとなると、主語は省庁或いは自治体になってくると思うが、これについて省庁からコメントはあるか？

：データガバナンス委員会のプロセスを経て、二次利用を促進するための利用条件の明示をするべきかを議論している。情報通信白書のケーススタディを細かく詰めることで、過去のデータについて細かくやると大変になるとか、新しいものを中心にやっていくべきであるとか、過去のものをチェックしていく上では簡略化して誤訳語がないか等、今後オープンライセンスをデータに付けていく上で、役に立つ示唆が得られている。情報を広く IT 本部にもインプットし、公表していきたいと思う。

：この場には、内閣官房 IT 担当室をはじめ多くの省庁の方々、自治体関係者の方々に出席をいただいている。全ての省庁、自治体に広げていくとなると、大変大きな仕事になるのでよろしく願います。

- ・②資料 5 に基づき、越塚主査 (技術委員会) より、「**技術委員会検討状況**」について報告。

4. 平成 24 年度活動報告と平成 25 年度活動計画案

- ・資料 6 に基づき、事務局より、「**平成 24 年度活動報告と平成 25 年度活動計画案**」について説明。

【質疑応答】

: International Open Data Day の感想としてアイデアソン、ハッカソンでできたものをどう育てていくかが課題である。そのための仕組みとしてどういったものが必要かは難しい。イギリス政府は、Open Data Institute というインキュベーション組織を立ち上げている。ハッカソン、アイデアソンに限らずコンテストの形式で時間をかけて作られたものを育てる場、種が花開いていくために必要な場を作っていく必要がある。

: 今後の方向性についてのコメントとしては、やはりオープンデータだったのだという気がしている。元々オープンガバメントデータという話（つまり、言葉遣い）があったが、（その際）そもそも念頭にあったのは行政系のデータだった。（データの利活用について）議論をすすればするほど、先ほどの ITS Japan の道路混雑度データのような民間マスタデータは公共性を帯びてくる。たとえば、この道路混雑度データを救急車のカーナビ上にマッシュアップすると公共性を帯びる。つまり、患者搬送時間を短縮できて、命を救うことができる。しかし、混雑度データの公開や連携のあり方を、完全に企業任せにしておくと、救える命も救えなくなるおそれがある。例えば南海トラフ地震が起きた時に、いずれかの自動車事業者がカーナビによる混雑情報の公開依頼に対してノーと言った時にデータが出てこなくては困る。これからは改めてオープンガバメント アンド プライベートデータの方向なのではないかと感じた。

: コンテストは賛成である。オープンガバメントから入ったが、民間もオープンデータ Web API という形で取り組んでいるが、開発者にも認知されない要因だ。sabae.cc という形でデータ等を収集している。そういうところからオープンデータ認知のきっかけになればよい。

: オープンデータの重要性は公共データだけにあるのではない。まずは、公共データをオープン化するが、民間の保有するデータも適切なルール化をしたうえでオープン化していくことになるだろう。民間データにも使えるガイドラインにすることが重要である。調査結果をオープンにするのであればどのように使ってもらえるようにするかも、今後の活動の中に入れてもらいたい。

5. 勝手表彰・表彰式

【受賞者挨拶】

最優秀賞/Google 賞「データシティ鯖江」

: 本日はこのような賞をいただきありがとうございます。データシティ鯖江の取組みは、福野さんのご提案で進めさせていただいた。また、これまで褒め続けていただいた皆さんにもお礼申し上げます。先日市長に受賞報告すると、これからも挑戦するように言われたので、今年は県や市町村とも一緒になってデータを作っていきたい。

優秀賞/日本 IBM 賞「2013 International Open Data Day」

: 日本では初めての International Open Data Day だ。OKFJ としては開催を呼びかけさせていただき、後ろ側でお手伝いをさせていただいた。オーガナイザーとして調整・運営させていただいた 8 都市の皆さん、参加してくださった 400 人の皆さんが受賞したと思っている。世界では 102 都市で開催されていて、国内 8 都市というのはアメリカ、イタリアに次いで 3 番目に多かった。今後は成果の方で、世界に驚いてもらえるようなものを作っていきたい。来年はもっとたくさんの都市と盛り上げられればと思っている。

優秀賞「図書館横断検索サービス カーリル」

：この度はカーリルの取組みを評価いただきありがとうございます。これからもここで立ち止まることなく、図書館がもっと楽しくなるように、オープンデータを活用して取り組んでいきたいと思う。

優秀賞「Where Does My Money Go? の日本語化と横浜市版の作成」

：我々は昨年6月30日に初めて集まって、議論し、2日でリリースし、全国にインパクトを与えることができた。皆さんの一歩も全国に広がっていくにちがいないので、皆さんもデータを使った新たな一歩を何らかの形で踏み出していただければありがたいと思う。ありがとうございました。

優秀賞「気象庁の一連の取組み」

：気象庁の取組みについて高く評価いただきありがとうございます。気象庁は、元々天気予報をはじめとする様々な情報を作成し、社会に広く提供し、使っていただくのが役目ですので、このような賞をいただくことに恐縮しています。コンソーシアムでも11月、12月にかけて気象データをテーマにアイデアソン、ハッカソンを開催していただいた。その時にも気づかされましたが、進展するICTや他の分野との連携を進めていくことで、気象情報はもっともっと利活用される余地があると思います。今後、さらに気象情報の利活用がいろいろなところで進むよう、また、それによって社会全般の利便性向上に繋がっていくよう、気象庁としても引き続き努めて参りたいと思います。本日はありがとうございました。

優秀賞「あおもり映像コンテンツ・プロモーション」

：このプロジェクトは、2か年の事業で実施している。青森県庁では事業立案制度で、庁内ベンチャー制度というのがある。職員が事業提案し、知事にプレゼンテーションをし、OKなら予算と人を付けてもらえる。事業提案だけならよくあるが、本人が事業を実施する。私を含めて3人が事業提案をし、採択されて2か年で実施したものである。外部メディアから映像がないか問合せがあるが、青森県が著作権を持っている映像がないので、提供ができない。そうすると青森県の露出が下がるので、PR効果が低くなり機会損失が出てもつたいない。そうであれば、青森県が著作権を持つデータを蓄積すればいいということで、職員が撮影から編集・公開まで担当した。現在YouTubeで4000本近くの動画が上がっている。映像素材なので30秒程度のものがあがっている。山の絵がご入り用の時は、我々が上げている八甲田の絵を使っていたきたい。また、今年と来年に新しい事業として、青森県庁ライブコミュニケーションプロジェクトを実施する。県庁の情報をオープンにしてソーシャルメディアにコミットし、Twitter・Facebook・Ustreamに青森県の情報を出して、皆さんとコミュニケーションして県庁と県民との距離を近くしたい取組みも行っている。毎日16:30からUstreamを配信していて、職員が出演から配信までやっているの、お時間があれば見ていただきたい。

優秀賞「LODチャレンジ」

：この委員会は、慶應義塾大学 環境情報学部 萩野研究室に事務局を置いており、産学から約30名の有志が集まって活動している。3年前に企画の話が持ち上がった際に、鶏と卵が大きな課題になった。皆さん自身がデータやアプリを作るよりも数日でリリースをしてしまう方がたくさんいらっしゃるの、そうした皆さんが作品という形で発表する場を作ろうということで始めた活動である。先日今年度の表彰式が行われた。全体で205件の応募があり、前年度の3倍応募いただいた。具体的なデータ、事例に基づいた議論をする土壌ができたのではないかと。私どもはLinked Open DataのLinkedの部分にこだわり、オープン＝繋がるというキャッチフ

レーズで活動している。皆さんが少しずつデータを作って、それを別の方がアイデアを出してアプリケーションを作りそれで得られた成果を皆さんに発信していく。こうした取り組みをコンテンツという場を通して発信していくことで、データ・作品・人が繋がる。それを続けていくことで大きな取り組みになっていくと考えている。多様性のあるコミュニティの中で、必要になってくるのが共通のボキャブラリー・データモデルである。それこそが Linked Open Data であると確信している。来年度も新しい形で取り組んでいきたい。参加・支援していただいた皆様、ありがとうございました。

優秀賞「CKAN を用いたデータカタログサイト」

：私どもは、昨年度の GLOCOM のアイデアソン・ハッカソンで、そもそもオープンデータといっても、どこにデータがあるかわからないという話になり、日本語データポータルを作ろうということで発足した。現在 Facebook の CKAN 日本語化コミュニティで活動している。成果として、CKAN の最新のバージョン 1.8 に国際化の情報があがっている。CKAN1.8 を使えば日本語としても扱えるようになってきている。あくまで CKAN のアップストリームの方にコミットして使える。それを使って日本のデータがどこにあるかというサイトを運営している。現在 180 程のデータセットが入っている。これをどんどんコミットして育てていきたいと思っている。これ自体はウィキペディアのように誰でも書けるようになってきているので、皆さんも参加していただければと思う。本日はありがとうございました。

日本マイクロソフト賞「横浜オープンデータソリューション発展委員会の活動」

：横浜で地域情報化というキーワードで 10 年位活動をしてきた。その中で行政の方々、企業の方々、大学の研究者、市民活動団体等いろいろな出会いがあった。横浜は現在 369 万 5000 人位の人口である。その豊富な人材、生活者がいるのでモデル的な事例を横浜のフィールドで作っていかうと、いろいろな分野の人達がオープンデータのキーワードの下に結集していると感じている。これからもいろいろな団体との連携、いろいろな都市との連携しながらオープンデータの利活用に関してどんどん走っていききたいと思っているのでよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

国際大学 GLOCOM 賞「東日本大震災アーカイブほか 3 件の取り組み」

：本日は、渡邊先生の代わりにご挨拶申し上げます。このアーカイブシリーズは、全国の協力者の方々のご支援があつて成り立っている。この場で御礼を申し上げたい。出席できなかった渡邊先生からコメントを頂いているので、読み上げたい。「講演者らは、時代の経過とともに散逸していく歴史資料をネットワークを通じて収集し、デジタル・アースの仮想空間に集積して公開するデジタルアーカイブズを構築してきました。これまでに、南太平洋の島国ツバル、長崎・広島原爆、東日本大震災、そして沖縄戦をテーマとしたアーカイブズ・シリーズを公開しています。これらのアーカイブズ・シリーズの目的は、公開されていなかった資料をオープンデータ化し、データ同士の時空間的な関連性を提示することによって、事象についての多面的な理解を促すことです。さらにアーカイブズ構築活動のバックボーンとして、オンライン・オフラインで人々を繋ぐ「記憶のコミュニティ」を形成することを企図しています。また、2012 年秋に開催された「東日本大震災ビッグデータワークショップ」においては、アーカイブズ・シリーズで用いた手法を応用し、震災後に収集された大規模データをもとにした、災害状況の可視化に取り組みました。これは、同時代の災害記録を未来に残していくための、あらたなアーカイブズ構築の試みでもあります。今後の私たちの活動にもぜひご支援賜れば幸いです。」本日は、どうもありがとうございました。

ソフトバンクテレコム賞「エレクトロニカル・ジャパン」

:今日は、素敵な賞をいただきありがとうございます。このサイトは電力に関するいろいろなデータをマッシュアップし、ビジュアライゼーションするサイトである。これを作るきっかけになったのは、2年前の東日本大震災である。その時に電力事情が危機を迎えて思ったのは、日本のどこにどんな発電所があるのだろうかという疑問だ。実際に調べ初めて、データベースを作ろうと思ったが、やってみると非常に大変だった。そういうオープンデータは世の中に存在していなかった。現在、発電所データで3400カ所位あるが、3000カ所位の発電所の場所は、手で1つ1つ打ってようやくできた。最近は自然エネルギーの発電所であるメガソーラーという発電所が増えている。それも日々調べて1点1点打っている状況である。そういったデータが今後オープンデータとして、出るようになればこういう苦労もしなくてよくなるかもしれない。そういう流れを期待している。本日は、ありがとうございました。

全国地質調査業協会連合会賞「流山市/流山市議会の取組み」

:本日は素晴らしい賞をいただきありがとうございます。この取り組みは、昨年10月位から始めた。最大の特長としては、流山市議会と市役所が共同で取り組んでいることである。市議会では委員会の会議データや市役所では公共施設情報や子育て・防災に関する情報を現在公開している。今年10月にそれらのデータを市民の皆さんに活用していただくために、イベント等を開催していきたいと考えている。この場の皆様にお知恵をお借りして、ご協力いただければ幸いです。

Open Knowledge Foundation Japan 賞「電腦みやしろ」

:宮代町は人口3万3千の小さな町である。市のHPで「電腦みやしろ」と銘打って、職員が全て制作して管理運営している。なるべく多くの町民に様々な情報を提供するべく励んできた。今回このような賞を受賞させていただいたので、更にデータのオープン化を進めていきたい。宮代町には東武動物公園があり、4月になると桜がきれいなところなので、皆さんお越しください。本日はありがとうございました。

【審査員挨拶】

:このような表彰では誰に賞を上げたかが数年後に賞の評価につながる。これは表彰した側にも言えることではあるが、受賞された皆様も今後の活動が賞の価値を決めると言うことで今後もより一層の活動をお願いいたします。

:すばらしい活動をしていることがわかり、ますます発展していただきたい。受賞作品を選ぶ際に、候補がいろいろあり比較した。私自身の評価軸は一つのデータが他のサービスにもつながるようなオープンプラットフォーム的な役割を担うものを評価した。今回の受賞作品にもあるカーリルは、カーリルのサービスを使って民間の書店の在庫表示にもつながっており、活動がその先に広がっていると言うことで感銘を受けた。今後ともご活躍ください。

:活動開始当初は行政にはあまりなじみがなかったが、データシティ鯖江の提案後、行政が小回りのきく対応をしてくれ、オープンデータの活動が広がった。3月30日にNHKの討論番組「ニッポンのジレンマ」というのがあるが、そこでオープンデータを取り上げてもらうことになっている。コンソーシアム発足時に掲げられた世界一を目指す一員とし頑張りたい。

:電子行政オープンデータ戦略が出るところからお手伝いをし、GLOCOMとしてアイデアソン・ハッカソンを多数開催し、OKFJとして活動をし、いろいろな人を巻き込んできた。そういう人がここでたくさん評価をされて良かったと思う。オープンデータをすすめて行くに当たって、今までは海外の事例を紹介してきたが、このようにたくさんの事例が発掘されてきたことで国内

の事例を紹介できるようになってきた。これがモデルとなって、来年は激戦過ぎて賞を選ぶのが大変だという風になれば良いと思う。

: 庄司委員と一緒にこのテーマで活動してきたが、GLOCOMさんは賞賛すべき活動をしているので個人的に支持している。オープンデータ活動のポイントは、だれにも頼らない、やれることは自分でやるということである。政府に頼るのではなくて、自分個人の力で、ある時は GLOCOM や仲間たちと進めてきたことが基本スタイルである。今後もより一層の連携関係の発展を望んでいる。

: 自身もいろいろな活動をやってきたが、実際に手を動かして汗をかいた方が受賞したということがよかった。今年度は委員の側からの受賞者も多かったので、来年は委員以外の方がたくさん受賞できるよう、皆様にも活動いただきたい。

【後援団体挨拶】

GLOCOM

: どの作品も甲乙つけたがったが、GLOCOMは大学と言うことで、大学の中で実施されている取組はないかと眺めていたところ、今回の東日本大震災アーカイブを見つけた。この作品自体が優れていることに加え、先生一人だけではなくて、学生、地域と一緒に取り組んだプロセスが印象的であったので GLOCOM 賞に選んだ。新しいユーザーが増えるのが重要なので、卒論でオープンデータに取り組むと卒業できるということが分かったと思うので今後は学生の取り組みが活発になればと期待している。

グーグル

: 私たちはデータシティ鯖江を Google 賞に選定した。国の動きというのものもあるが、元気な基礎自治体から小回りのきくことをやっていくという姿勢に非常に共感した。国が重視している安心安全・交通面というデータから始まり、地域の人に役立つ観光文化資源、産業振興に役立つ農産物の直販等、のデータを公開され、オープンデータの本来の目的である透明性確保のための行政政治のデータのオープン化に取り組まれている姿勢を高く評価させていただいた。さらにオープンデータそのものではないが、私どもとして特に応援したい理由は、オープンデータが産業振興政策の、IT 振興政策の全体に位置づけられていたのがすばらしい。鯖江は伝統的な産業としてめがね、織物、漆器産業があった。これからは IT 産業に取り組むというのはすばらしいと思っている。IT×めがねということで、電脳めがねサミットの活動もされているようだが、Google も Google Glass というめがねをやっている会社でもあるので応援したい。

日本 IBM

: 本日午前中の報告を聞いていて、総務省のリードで産官学の活動がまわりはじめているのだなと思った。表彰については産官学のスキームに加えて、コミュニティのコラボレーションが重要であると思った。大学の先生が実施している活動も大学としてやっているのではなく、自発的にコミュニティの意識をもってやるどころから始まっている。必要な人が必要なデータを必要な形で実装するということがとても意義深い。これが Openness の体現だと思う。

日本マイクロソフト

: 日本マイクロソフトでは世界各国でグローバルにオープンデータの取り組みを支援してきた。グローバルに話をしても、政策課題に直結した取組というのがなかなか出てこない。日本マイクロソフトとしては今後、日本から政策課題に直結した取組を出したいと思っている。今回横浜オープンデータソリューション発展委員会の活動を選んだのは、横浜市も様々な政策的な課

題を抱えていると思われるなかで、昨年暮れから何度も市民やコミュニティを巻き込んだ活動をされており、その機動性。に期待を込めて受賞とした。オープンデータの取り組みは難しい側面もあると思うが今後も支援していきたいと思っている。

ソフトバンクテレコム

：ソフトバンクテレコム賞としてエレクトリカル・ジャパンを表彰した。我が社としても、携帯端末がセンサー端末として人に持って歩かれるため、様々なデータがビッグデータとして上がってくる。それをどう生かすかが、オープンデータとして取り組まれていく一つの方向性であると思う。その一つとして、エレクトリカル・ジャパンが、広域のデータを見える化するということを実施されていた。この作業を手作業ではなくて、自動的に相互利用できれば、東日本大震災の際にもどのような電源があるかや被災状況がわかり本当に安心安全が確保されるのではないかと思う。是非オープンデータについて、世界をリードできるような形で成果を出していただければと思う。

全国地質調査業協会連合会

：流山市が、市議会と一緒に取り組んだところを評価した。これからもまだまだ伸びていく可能性があると思うので、頑張ってください。

OKFJ

：オープンデータの取り組みは年度後半に加速したと思う。政府としては今後オープンデータに関するガイドラインを作り、IT 戦略もできると聞いている。また、今度のサミットでもオープンデータが取り上げられると聞いており、今後ますますこのテーマは重要になってくることであろう。実のある取組となるようにこの取り組みをしていきたいと思っている。ぜひ、皆様にもご参加いただきたい。

：受賞された皆様おめでとうございますというのも変ですよ。勝手に表彰しているので。受賞していただいてありがとうございます。本日の副賞はデータガジェットとワインと、ビールと日本酒ということで、デジタルで飲んで食べてコミュニケーションということか。飲み会も一度やらないと行けないと思う。

ノミネート作品を見ていて、様々な活動が展開されていることに心が強くなった。新しい活動は儲かるか、誰かに命令されてやるかということが相場であったが、今回は純粋な公共心と熱意でスタートしているところに感動した。このような人により多くのリスペクトが集まり、ビジネスとしても花開くことになることを期待している。

受賞者のリストを見て感じたのは受賞された方の多様性である。中央官庁、中央の大都市、地方の県や市、町もあれば、企業、非営利の団体もあった。国立の研究所もあれば、学生もいた。一つの省でこれほど多様な人が顔を見せるのはあまりない。大都市も地方都市も企業も学生も同じく熱意をもって取り組んでいることに大きな可能性を感じている。現在は、まだ点が散らばっている段階かもしれないが、これを面にして、さらにはオープンデータ列島にしていきたい。今日の実賞者の方にはこれからも強く引っ張って行っていただきたい。

以上